福祉や医療の分野の充実を求める結果

レポート
平成19年度「市民の声」アンケート集計結果

調査期間	8月1日から同31日まで
調査対象	無作為に抽出した20歳以上の市民2500人
回収数	1202件
回収率	48.1%
設問数	12問（選択式）

まちづくりの今後の方向性を把握するため、住みやすさや居住意向、市政への関心度など12問による「市民の声」アンケートを実施しました。回答していただきました皆さん、ありがとうございました。

まちの印象については右下の棒グラフのとおり、約8割の人が郷土愛を抱き、5割強の人が住みよいと感じています。さらに、7割の人が「ずっと住み続けたい」と回答しています。

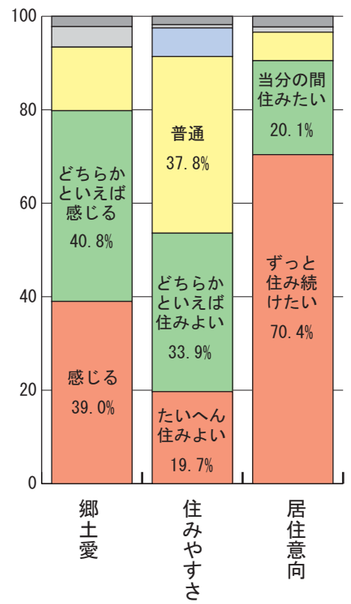
市政への関心については下の円グラフのとおり、8割強の人が市政に関心をもっています。しかし、市の行政サービスに「満足できる」と回答した人は4・3%。次いで、「どちらかというと、満足できる」と「どちらかというと、満足できない」が続き、ともに約4割の人が回答しています。

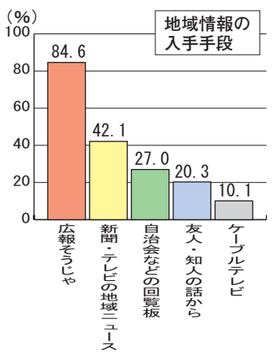
地域情報の入手手段は下の棒グラフのとおり、8割以上の人が、『広報そうじゃ』を利用しています。市のホームページを利用している人は約4%でした。

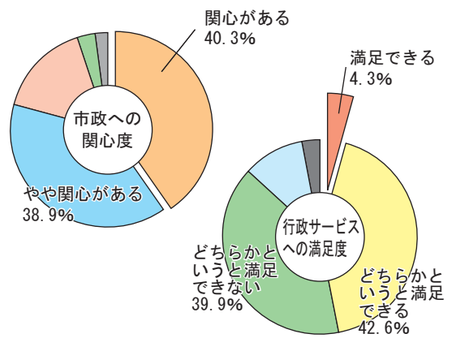
将来の地域活動については、少子高齢化が進むなか約7割の人が不安を感じながらも、6割強の人が地域活動へは参加したいと考えています。

市民と行政の協働（パートナーシップ）のまちづくりを進めるうえで必要な分野については、「保健福祉」を4割強の人が選択。次いで、「環境保護」、「教育」となっています。

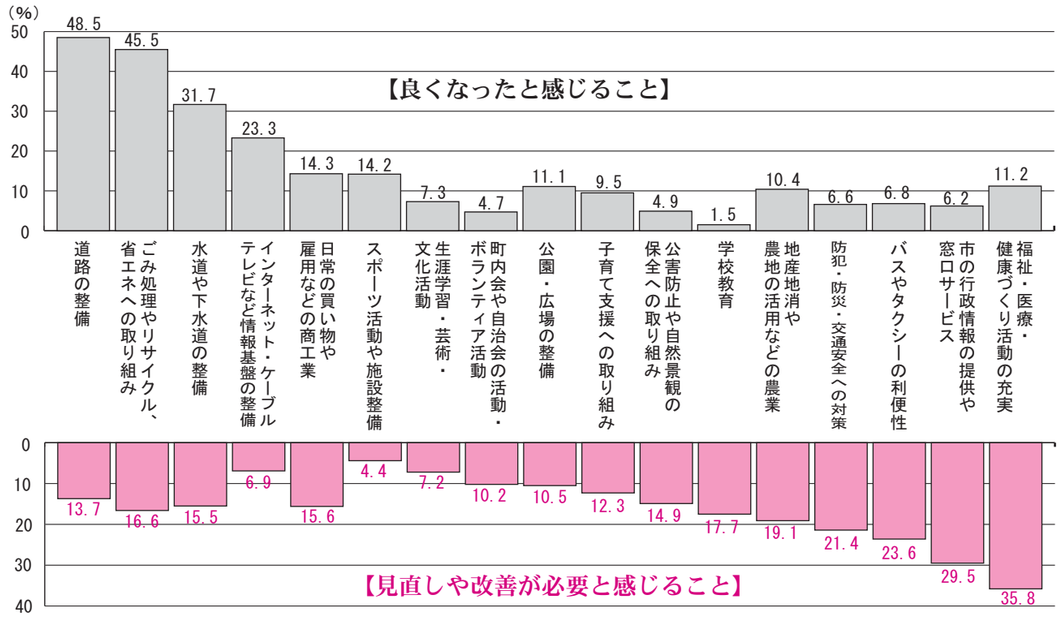
■郷土愛や市政への関心度、地域情報の入手手段ほか







■5年前と比較したくらしや生活環境の変化



「福祉・医療・健康づくり活動の充実」や「市の行政情報の提供や窓口サービス」がより良くなることに期待

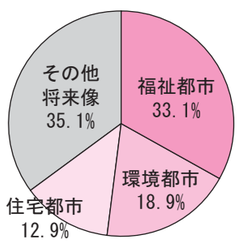
上のグラフのとおり、くらしや生活環境を5年前と比較して良くなったと感じることについては、「道路の整備」、「ごみ処理やリサイクル、省エネへの取り組み」など。一方、「福祉・医療・健康づくり活動の充実」、「市の行政情報の提供や窓口サービス」などについて、見直しや改善が必要と感じている人が多いことが分かります。

今後、優先的に取り組んでほしいことについては、約半数近い人が「救急医療体制の充実」や「高齢者・障がい者の福祉の充実」と回答し、見直しや改善が必要と感じることと傾向が一致。この分野への市民の期待の大きさが分かります。これ以外では、「防犯・交通安全への対策」をはじめ、「地球温暖化防止への取り組み」、「特産品の開発やサン直などの特色ある農業」、「吉備路の観光資源を生かした観光の振興」などの項目が上位を占めました。

3人に1人が福祉都市を望む

総社市の望ましい将来像については右のグラフのとおり、3人に1人が「福祉の施設や制度が充実しているまち（福祉都市）」と回答しています。

選択式の設問以外に、自由に意見を書いていただく欄も、アンケートにはあり、ここには588件の意見や要望、苦言をいただきました。内容も、「ごみ袋の値段を安くして」、「救急医療体制の整備を」、「市の窓口の対応を良くして」などさまざまでした。いただいた意見や要望は、今後の市政に反映していきます。



■総社市の望ましい将来像

問い合わせ　企画課秘書広報係（☎92-8214）